

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 24 人 国語B 24 人

② 算数A 24 人 算数B 24 人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

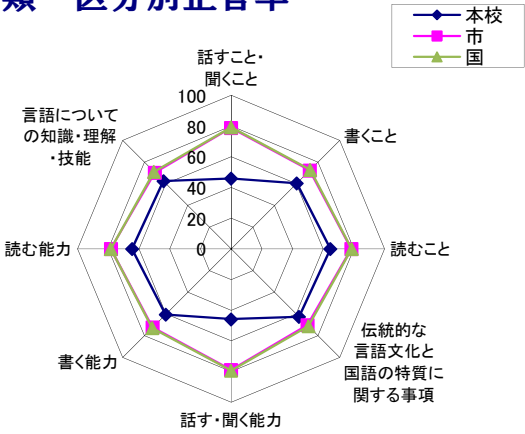
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

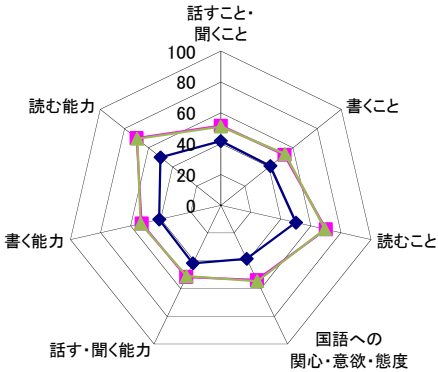
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	45.8	78.8	79.2
	書くこと	60.4	72.4	72.8
	読むこと	64.6	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.5	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	45.8	78.8	79.2
	書く能力	60.4	72.4	72.8
	読む能力	64.6	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	62.5	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	41.7	51.7	51.1
	書くこと	41.0	52.7	53.4
	読むこと	50.0	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	38.5	53.8	54.7
	話す・聞く能力	41.7	51.7	51.1
	書く能力	41.0	52.7	53.4
	読む能力	50.0	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

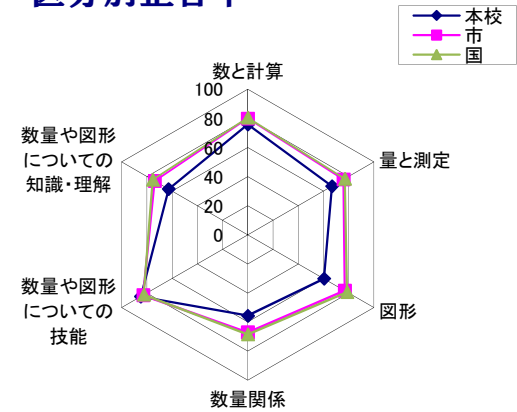
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aにおける本校正答率は45.8％であり、市の平均と比較すると33.3ポイント、全国の平均と比較すると33.4％低い。国語Bにおける本校正答率は41.7％であり、市の平均と比較すると11.7ポイント、全国の平均と比較すると9.4ポイント低い。 ●目的や意図に応じて、収集した情報を関係づけて話し合う力に課題が見られる。	・目的や意図に応じて、話したり聞いたりする力が高められるように、計画的にスピーチやインタビューなどの言語活動を取り入れる。 ・特に、インタビューについては、教師が話し手を演ずることにより、話し手の意図を捉えながら聞いたり、話し手の発言を受けて質問したりする仕方を理解させたい。そうして、話し手の答えを予想したインタビューメモを具体的に作成させることを理解させていきたい。 ・学級活動や委員会活動等での話し合いにおいて、話し方や聞き方についての基本を確認する指導を全職員で行い、実感を伴った話すこと、聞くことの力の定着を図っていきたい。
書くこと	●国語Aにおける本校正答率は60.4％であり、市の平均と比較すると12.4ポイント、全国の平均と比較すると12.4ポイント低い。国語Bにおける本校正答率は41.0％であり、市の平均と比較すると10ポイント、全国の平均と比較すると12.4ポイント低い。 ●表現の仕方をよりよくすることや、目的や意図に応じて書く事柄を整理することに課題が見られる。	・文章の要旨をまとめる力を育てるために、日常的な指導も含め、日記や意見文、紹介文等の言語活動を多く取り入れたい。 ・目的や意図に応じて、グラフや表を基に自分の考えを書く活動を他教科とも関連させて取り入れていきたい。その中で、根拠のある書き方は、読み手への説得力を高めることが理解できるよう指導していきたい。
読むこと	●国語Aにおける本校正答率は64.6％であり、市の平均と比較すると13.7ポイント、全国の平均と比較すると13.9ポイント低い。国語Bにおける本校正答率は50.0％であり、市の平均と比較すると19.9ポイント、全国の平均と比較すると19.3ポイント低い。 ●特にA問題における図や表の関係づけや登場人物の相互関係を読み取る問題において課題が見られる。	・国語の授業の中で、文章と図やグラフなどを関係付けて読む単元を丁寧に扱い、図やグラフ等を用いることの効果や文章との関係について理解させるようにしていきたい。 ・登場人物の人物像をどう捉えたかを、複数の叙述を基にして児童間で交流し合う活動を重視し、いろいろな見方があることを知らせたい。そして、それらを関係づけて人物の特徴や性格をまとめる活動を進んで取り入れていく。これは、低・中学年にも関連しているので、継続して指導する必要がある。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を書くこと、読むことに限して、平均して90％を超える正答率である。 ●国語Aにおける本校正答率は62.5％であり、市の平均と比較すると7.8ポイント、全国の平均と比較すると8.6ポイント低い。 ●ローマ字の正答率が低く、定着が図られていないことが課題である。	・ひらがな表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字表記のものを正しく読んだりする力をつけるため、連絡帳など日常書く活動をローマ字で記入するなど、数多くローマ字表記する場を設定していきたい。また、パソコンを使いローマ字入力を行うなど、もう一度復習を行ってほしい。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

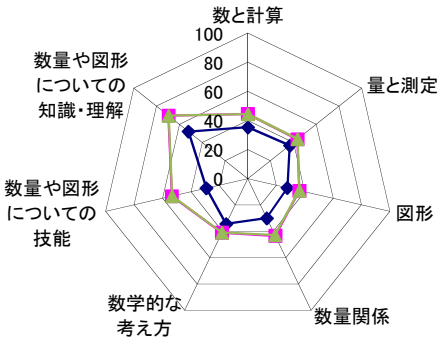
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	75.8	79.9	80.5
	量と測定	66.7	75.9	77.0
	図形	60.4	76.9	78.8
	数量関係	55.6	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	85.0	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	62.9	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	35.4	44.5	44.4
	量と測定	36.7	43.5	43.7
	図形	27.8	36.2	36.3
	数量関係	29.9	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	34.3	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	29.2	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	52.1	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数量の計算問題では、90%を超えることから、基礎的な技能の定着が図られていると考えられる。 ●算数Aにおける本校正答率は75.8%であり、市の平均と比較すると4.1ポイント、全国の平均と比較すると4.7ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は35.4%であり、市の平均と比較すると9.1ポイント、全国の平均と比較すると9.9ポイント低い。 ●計算した解答の確かめ方や、文章を式で表すことに課題が見られる。	・計算について、毎日宿題としてプリントを課してきた。基本的な計算問題については常に触れている状況を今後も継続し、さらなる定着を図るようにしていく。 ・授業の中で計算して解答したものを、もう一度確かめることを意識させる指導を行う。確かめるために四則の計算の性質を具体的な場面と関連付けながら理解を深め指導していく。 ・文章題に対して、問題場面を数直線を使い適切に理解させる。計算だけでなく文章を式で表す問題を多く取り入れ定着を図りたい。
量と測定	●算数Aにおける本校正答率は66.7%であり、市の平均と比較すると9.2ポイント、全国の平均と比較すると10.3ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は36.7%であり、市の平均と比較すると6.8ポイント、全国の平均と比較すると7.0ポイント低い。 ●特にB問題では、図形から規則性を見つけ式で表したり、示された説明を他の場面でも適用できることを説明したりする問題に課題が見られる。	・三角形の底辺や高さの関係について、面積を求めるために必要な長さや高さの定義の確認の行いたい。 ・単位量あたりの大きさについては、問題場面を図で表し、既習事項の除法の学習で扱った数直線と関連付けるなどして、立式する活動場面を増やしていきたい。 ・規則性のある問題に対して、見つけた決まりがいつでも成り立つかを確かめたり、他の問題場面でも利用できるかを考えたりすることについて、立式の考えや理由の根拠を丁寧に説明する活動を授業の中に取り入れ指導していきたい。
図形	●算数Aにおける本校正答率は60.4%であり、市の平均と比較すると16.5ポイント、全国の平均と比較すると18.4ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は27.8%であり、市の平均と比較すると8.4ポイント、全国の平均と比較すると8.5ポイント低い。 ●図形の構成要素に着目して考えたり、図形の性質をふまえた作図に課題が見られる。	・図形の性質を理解するために、図形がどのような形でできているか、また、辺の長さや角の大きさにも着目することで、対応する辺や角にも目を向けさせたい。そのため、具体物を用いた活動を増やし、図の構成要素を考える指導を行ってほしい。 ・目的に応じて作図する場面を増やす。図形の性質を想起できるように、繰り返し図形の性質を基に作図する経験を積み重ねていきたい。
数量関係	●算数Aにおける本校正答率は55.6%であり、市の平均と比較すると11.5ポイント、全国の平均と比較すると12.9ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は29.9%であり、市の平均と比較すると13.6ポイント、全国の平均と比較すると13.0ポイント低い。 ●割合に関する問題や、日常生活の問題から示された場面を読み取り、式に表したことを説明する力に課題が見られる。	・割合の学習では、量の大きさを比べる場面だけでなく、割合で比べる場面もあることを理解できるようにさせたい。また、そのために、数直線上での基準量、比較量、割合の関係を明確にとらえさせる指導を重ねたい。また、授業の中で、問題場面のイメージを数直線などで表現し合うとき、何が単位量に当たるのかを意識させて正しく捉えさせたい。 ・授業においても、日常生活の問題の解決に向けて、必要な情報を集め、目的に応じて立式する場面を増やしたい。また、そこで用いた式や答えを表す内容を日常の場面に戻って考察する経験を豊かにさせて定着を図りたい。さらに、グラフや図から読み取ったことから、立式した理由を文章で書く活動の場を多く取り入れていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしているか」「友だちとの約束を守っているか」と回答している肯定割合はいる児童の割合が100%であり、市の肯定割合を大きく上回っている。

○総合的な学習では、90%以上の児童が肯定的な回答をしており、市の平均を大きく上回る結果となっている。自分が立てた課題を追及する姿によく表れている。課題の設定、追究、まとめ、発表、話し合いなど、意欲的に取り組んでいたことがわかる。

●「普段（月～金）、何時ごろ寝ますか」の設問には、午後10時～午前0時より前に就寝すると回答した児童が58.3%と多い。市に比べ就寝時刻が非常に遅い。小学校6年生としての健康状態を考えた就寝時刻としては遅いと言える。児童に「早寝・早起き」の必要性を健康面からも話していくと同時に、家庭へ協力を依頼し、生活習慣の改善としての早めの就寝時刻の励行を図っていくようにしていきたい。

●「普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（ゲームをする時間を除く）」の設問では、30分以上～3時間より少ないと回答した児童は50%おり、市に比べ使用時間が非常に多い。今後、通信機器における書き込みなどを含めた情報モラルの指導の徹底を図っていく必要がある。無造作にタブレットなどを使い続けている児童も多い。今まで通り、「基本的には携帯電話を持たせないこと」、どうしても持たなければならない理由がある場合には、「必ずフィルタリングをかけること」を家庭に話したい。さらに、「家庭での使用のルールを決め、厳しく守らせること」を学校と保護者の間で共通理解し、時間の制限を設けるなどよく話し合っていきたい。

●読書を好きな児童は、クラスの80%を超える。しかし、「1日当たりどれくらいの時間、読書をするか」「学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、地域の図書館にいきますか」の設問では、1日当たりの読書量は0～30分ぐらい読んでいると回答した児童は約50%を超える割合となり、読書時間は少ない傾向にある。また、図書館に行く頻度を「年数回」「行かない」と回答した児童も同様に、50%を超える割合となり、読書離れが心配される結果となった。朝の読書時間の他にも読書に進んで取り組めるよう、読書のよさや必要性を感じられるような指導を工夫するとともに、保護者へも親子読書など呼びかけ、児童が本を読む機会を広げていきたい。

●「新聞を読んでいるか」の設問では、80%を超える児童がほとんど読まないと回答している。世の中のことへの興味・関心や文字にふれる意義を児童に伝え、社会への興味・関心をさらに高めるよう、家庭に協力を依頼するなどし、それらの行動できたことを児童の成長として認め合えるよう励ましていきたい。

●国語の学習に関しての意欲があまり高くない現状である。子どもたちが学ぶ意義を理解し、意欲的に取り組む授業を行えるように心がけて指導していきたい。特に、文章を書くことの習慣化を図ることや段落のまとまりの読み取りから文を読み解くこと、自分の考えを詳しく説明するなど、一人一人の課題に応じた指導を行ってきたい。